

伊佐 歴史文化遺産マップ

1 伊佐浜「新造佐阿天橋碑」



1820(嘉慶25・尚瀨17)年、首里王府が佐阿天川(現在の普天間川)に石橋を新設した記念として建立された碑で佐阿天橋の建設経緯が彫られています。文字がすり減り判読が難しくなったため、現在は2000(平成12)年に復元した石碑を設置し、原碑は市立博物館に保存されています。市指定文化財(史跡)です。

2 御願所



1955(昭和30)年、米軍による強制土地接收の際に、伊佐の旧集落と御嶽などの拝所が破壊されたため、当時の区長たちは各拝所の香炉を集め、区事務所の横に安置しました。1980(昭和55)年には新公民館の隣に祠を建設し、香炉を移設しました。現在は12個の香炉が安置されています。

伊佐の村獅子



戦前まで集落にヤナムン(悪しきもの・疫病など)が入らないように、集落の南北のはずれに数体の獅子像が置かれていました。

10 戦前のムラヤー



多くの伊佐住民が住んでいた伊佐原(旧集落)の北側に、小さいながらも赤瓦葺きの立派なムラヤーがありました。沖縄戦により焼失し、現在その場所はキャンプ瑞慶覧となっています。

11 三本ガジュマル



旧集落のナカミチ中央に生え、子供たちの遊び場でした。旧暦六月十五日のウマチーの綱引きの際には綱打ちの会場としても利用されました。

12 伊佐前原第一遺跡

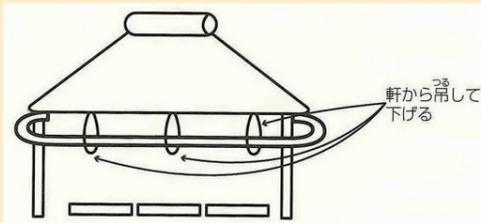


グスク時代初期の集落跡を主体とする遺跡です。耕作痕や土坑墓、グスク土器や12~14世紀の青磁や白磁などの時代を示す遺物が多く出土しました。

伊佐の綱引き

伊佐の綱引きは、旧暦六月十五日に行われました。「ナカミチ」と呼ばれる道を境にメンダカリ、クシンダカリに分かれて勝負しました。伊佐は綱の保存方法に特色があり、行事終了後、綱を一本ずつ解体し、その綱を家屋の周囲に回して軒のアマダイ(雨だれ)から縄で結んで吊るしたそうです。

綱は翌年も利用したので、行事後に他のムラへ譲ったり、他のムラから譲り受けることはなかったそうです。1942(昭和17)年前後まで行われていましたが、旧集落が接收された後は途絶えてしまいました。



※ 10 11 12 は現存していません。13 は普天間飛行場内に所在するため見学できません。

私 は私有地を通ります。見学の際は注意しましょう。9 は見学の際には事前に連絡が必要です。



13 ケレンケレンガマ



小字上原に所在するガマです。全長約90.0m、天井高1.0~2.4mあり、戦時中は避難壕として利用され、多くの伊佐住民の命を救いました。現在は普天間飛行場内に所在します。

9 豊の泉



戦後すぐにシンバルガーから流れてくる水を利用して築造されました。寄棟形の壁面には着工日と竣工日が記されています。導水管が敷設され、伊佐浜の住民に水を運びました。西普天間住宅地区に所在します。

8 伊佐「たけたう原」銘の印部土手



印部石は「ハル石」とも呼ばれ、1737~50年の乾隆(元文)検地の際、測量の図根点として設置されました。「ワたけたう原」と彫られている印部石と周囲の土手が当時のまま残っています。市指定文化財(史跡)です。

7 交通安全之塔



沖縄芸術界の巨匠、山田真山(彫刻)のデザインと謝花雲石(書道)の揮毫によって1965(昭和40)年に建立されたモニュメントです。

3 慰霊之塔



2001(平成13)年6月に字伊佐共有財産保存会によって建立されました。慰霊之塔には、第二次世界大戦の戦没者131柱の氏名が刻銘されています。伊佐自治会では、毎年秋分の日に慰霊祭を行っています。

4 ウプガー



旧集落の西側に所在し、子どもが生まれた時に水を汲んで産湯として使いました。基地接收後に埋められましたが、元の水源から水をひき現在は伊佐2丁目に復活させています。

5 ウフガー



旧集落の西側に所在し、飲料水や正月の若水取り等に利用されました。基地接收後に埋められましたが、元の水源から水をひき現在は伊佐2丁目に復活させています。

6 ふんしん川



フンシンガーまたはクンチンガーと呼ばれています。大雨の日にも濁らない清流がこんこんと湧き出たので、生活用水として利用されました。現在はふんしんせせらぎ通りの水源にもなっています。

伊佐区エイサー

伊佐区ではウンケー、中日、ウークイの三日間行われ、青年会が主体となって継承しています。型は戦前の伊佐エイサーと伊佐浜エイサーを基本とし、大太鼓を先頭に締太鼓が女性の踊りとペアを組み二列に並んで踊るのが特徴です。

